

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

(実施期間：平成27～令和2年度)

代表機関：岐阜大学（総括責任者：森脇 久隆）

共同実施機関：岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社

取組の概要

多様な設置主体（国立・市立・私立・民間企業）の連携機関を中核とする本事業は、各機関の特長を活かし、地域の要請に応える独創的な「連携型共同研究」を支援することによって、岐阜県全体としての企業と大学の総合的研究力向上を目指す。特に、企業インターンシップ制度の構築、人財バンク共同利用等によって、女性研究者の地元企業への就職支援、女性研究者（技術者）が上位職や学位取得にチャレンジする環境整備、休業期間中の応援・スキルアップと復職支援、さらには専門分野間の交流や転換が期待できる「研究者の地域循環型育成」を創造するものである。地元企業が期待する人材育成と女性研究者のキャリア形成によって、岐阜県の地域創生リーダーとして、女性研究者が活躍する地域社会を実現する。また、様々な取組の全体最適化を実現する「統括コーディネーター」を岐阜大学に配置し、共同実施機関及び地元企業等との連携の要としての役割を担う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

国立・公立・私立の3大学と1企業が連携し、岐阜地域における「地域循環型研究者育成」により、女性研究人材の地域内流動性や上位職登用を促進しようという意欲的な事業であり、4機関が協働して進める「研究補助員配置制度」、「連携型共同研究プロジェクト支援」、「企業インターンシップ」、また、企業の女性研究者の「学位取得支援」等、多面的な取組を展開し、地域において女性研究者がより活躍できる研究環境の整備、意識の醸成を行ったことは評価できる。自然科学系部局での女性教授の誕生、女性教授比率の増加、外部資金獲得数や発表論文数の増加といった取組の成果が挙げられている機関はあるものの、成果は限定的である。実施期間終了後に4機関が協定を締結し、後継事業として「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」を始動させており、今後の事業の展開が期待できる。東海国立大学機構を通じた県外との連携を進め、東海地域においても女性研究者の活躍促進における牽引役を果たすことを期待する。

- ・**目標達成度**：代表機関及び共同実施機関において、目標達成に向け様々な取組を総合的に進めた。しかしながら、多くの目標が未達に終わっており、女性研究者在職比率や女性教授比率に係る目標については、共同実施機関の岐阜女子大学とアピ（株）が達成しているものの、代表機関と共同実施機関の岐阜薬科大学はともに目標を達成できておらず、全体として見た目標達成度は不十分である。今後は、目標を達成できなかった要因を分析し、取組の改善を図ること

を期待する。

- **取組**：両立支援として「研究補助員配置制度」、「夏季休暇期間中の学童保育」の取組を4機関が連携して実施するとともに、「連携型共同研究プロジェクト支援」、「企業インターンシップ」、「学位取得支援」等、女性研究者の研究力向上を目指した特色ある取組を進めたことは評価できる。
- **取組の成果**：「連携型共同研究プロジェクト支援」により、4機関の女性研究者を研究代表とする62件の研究課題に対し研究費支援を行い、女性研究代表の発表論文数、競争的研究資金の獲得件数等を増加させ研究力向上に繋がったこと、また、代表機関の工学部と応用生物科学部等で女性限定公募を実施し、女性教員11名の採用、部局初の女性教授の誕生に繋がったことは評価できる。しかしながら、4機関における取組の成果は限定的であり、取組の実施が実質的な成果に必ずしも繋がっていない。実質的な成果が挙げられなかった要因の分析を行い、取組の改善を図ることを期待する。
- **実施体制**：「機関長会議」において4機関の長が意見交換を行い、また、実務については4機関の事業担当者が「連携協議会」において審議、検討を進める体制を構築することにより、4機関の緊密な連携体制が構築されたことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：4機関が協定を締結し、後継事業として「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」を始動させ、実施期間終了後も4機関が連携して取組を継続する計画となっており評価できる。今後は、東海国立大学機構を通じた県外機関との連携等も含め、岐阜地域のみならず東海地域全体としての事業の推進を期待する。